

R8 全国学力・学習状況調査結果 生徒質問紙

1. 概要

強み：授業における ICT 活用、生活習慣の定着、学習意識の高まり

授業での端末活用率は全国平均を上回り、タブレット等を日常的な学習ツールとして活用できています。また、規則正しい生活やスマホ・ゲームの利用などしっかりとした生活習慣の定着がなされています。また、学習習慣についても、多くの生徒が肯定的な回答をしており、学習意欲が高まっている様子が見受けられます。

課題：自己肯定感、家庭学習の二極化

自分には良いところや強みがあると感じている生徒の割合が低く、大きな課題です。また、平日の家庭学習時間が少なく、家庭学習の定着具合が二極化している傾向が見受けられます。

2. 本校生徒の良い点

① ICT 端末の日常的な授業活用(全国トップクラス)

- ◆ 1・2 年時の授業における ICT 活用率が全国平均を上回っています。
- ◆ 英語のキーボード・フリックによる英文記述をする活動の頻度が全国平均を上回っています。
- ◆ 総合的な学習における ICT 情報の活用状況が全国平均を上回っています。

1・2 年次からの ICT 機器を活用した授業設計が定着しており、発表スライド作成や情報収集・整理を円滑に行えるスキルが育っています。

3. 本校生徒の課題

① 数学・英語における苦手意識と学習体験の不足

- ◆ 「数学の勉強が得意」と答えた生徒の割合が全国平均を下回っています。
- ◆ 数学でわからない時に諦めず試行錯誤する生徒の割合が全国平均を下回っています。
- ◆ 「英語の勉強が好き」と答えた生徒の割合が全国平均を下回っています。

数学における苦手意識の強さが「理解の浅さ」や「粘り強さの欠如」につながっていることが考えられます。

② 家庭学習時間と自律的学習力の伸び悩み

- ◆ 平日に授業外で 1 時間以上勉強する生徒の割合が全国平均を下回っています。
- ◆ 「自分で学び方を考えて工夫できている」と答えた生徒の割合が全国平均を下回っています。
- ◆ 「学習内容を見直し、次の学習につなげる」と答えた生徒の割合が全国平均を下回っています。
- ◆ 「学校に行くのが楽しい」と答えた生徒の割合が全国平均を下回っています。

平日の家庭学習時間が全国平均を下回っています。自主的に学習計画を立てて振り返るメタ認知能力の育成が課題です。

4. 今後の指導改善に向けた 3 つのアクションプラン

① 「成功体験」を水平展開する

各教科で成果を上げている「生徒の伸びを評価するフィードバック」や「具体的な改善助言」を、全教科で共通実践します。

② 「思考の言語化・ペアワーク」の拡充

授業内で「なぜその答えになるのか」をペアで解説し合う時間を数分設定し、「説明する活動」を意識的に増やします。

③ ICT を活用した「15 分単位の家庭学習習慣化」

本校の強みである ICT 活用力を生かし、タブレットを活用した短期集中型の家庭学習課題やデジタル学習記録の活用を推進します。

R8 全国学力・学習状況調査結果 国語

1. 領域別平均正答率の比較

領域ごとの平均正答率は以下の通りです。

領域	本校の結果
話すこと・聞くこと（A）	全国平均と同程度ですが、やや下回っています。
書くこと（B）	全国平均と同程度ですが、やや下回っています。
読むこと（C）	全国平均と同程度ですが、やや下回っています。
全体平均	全国平均と同程度ですが、やや下回っています。

2. 生徒の良い点

① 文章の表現効果の工夫・思考力

I. 『気持ち伝わる表現の工夫』： 全国平均を上回っています。

読み手に配慮した語彙や表現の効果を正しく選択できています。

II. 『二つの例文を比較し効果』の記述： 全国平均を上回っています。

複数の文章や表現を読み比べ、その違いや印象・効果を自分の言葉で論理的に書く記述問題で大きな成果が見られます。

② 文章の推敲・自己評価

I. 『自分の文章のよい点や改善点の記述』： 全国平均を上回っています。

II. 『文章の展開の意図』： 全国平均を上回っています。

文章全体の構成や展開の狙いを捉え、より良く直すための観点を持つ力は全国平均を上回っています。

3. 生徒の課題

① 協議・話し合いにおける文脈理解と意見の形成

I. 『話し合いの中での発言について理解』： 全国平均を下回っています。

II. 『話し合いを受けて自分の意見』の記述： 全国平均を下回っています。

他者の発言の意図を正確に読み取り、それに応じた自分の立場や意見を記述する「対話的な活動」においてやや苦戦しています。

② 基礎的な言語知識（語彙・漢字の構造）

I. 『文字・語彙、漢字の組み合わせ』： 全国平均を下回っています。

「言葉の特徴や使い方（文法・熟語の成り立ち・漢字等）」は全国平均との差が大きく、基礎的な知識の定着に課題があります。

4. 今後の授業改善に向けた取組例

① 対話的学びにおける「受ける・つなぐ」記述トレーニング

- ◆ 話し合い活動の際、単に「自分の意見を書く」だけでなく、「〇〇さんの意見を受けて、私は～と考える」といった、他者の意見と自分の意見を関連付けて考えを整理する活動を取り入れる。

② 短時間での言語知識・語彙の帯学習

- ◆ 授業冒頭での5分間ミニドリル等を活用し、漢字の熟語の構成(対立・類義・修飾等)や語彙の使い方を継続的に補強する。

③ 強みである「比較・推敲」スキルの文書批評、批判活動への転用をする。

④ 『条件比較による効果の記述』の強みを活かし、他教科(社会・理科の論述など)でも複数の資料・仮説を比較して論述する活動と連携させる。

R8 全国学力・学習状況調査結果 数学

1. 領域別平均正答率の比較

学習指導要領の各領域、および全体平均の正答率比較は以下の通りです。

領域 / 区分	本校の結果
A 数と式	全国平均を下回っています。
B 図形	全国平均を下回っています。
C 関数	全国平均を下回っています。
D データの活用	全国平均を下回っています。
全体平均	全国平均を下回っています。

2. 生徒の良い点

① 思考・判断・表現を要する「理由の説明・記述問題」

I. 『二つの度数分布多角形の比較・説明』

全国的に正答率が低い記述問題において、全国平均とほぼ同等です。

II. 『グラフを利用した時間の求め方の説明』

記述式全体としては、選択式や短答式に比べて全国との差が小さく、自分の考えを文章で書く姿勢が身についています。

② 「数と式」領域における基本計算の定着

I. 『正負の数の変化・気温差』

II. 『予想が成り立つことを示す式』

計算の基本となる「数と式」領域は、4 領域の中で最も全国差が小さく健闘しています。

3. 生徒の課題

① 「データの活用」領域におけるグラフ・図の読解(箱ひげ図)

I. 『箱ひげ図からの読み取り』

最大の課題項目です。箱ひげ図の四分位数の概念や、図から読み取れる事実を判断する選択問題で全国平均を下回っています。

II. 『さいころの確率』

② 「関数」および「図形」における知識の活用と作業

I. 『反比例の表から y の値を求める』

II. 『グラフから座標の読み取り』

III. 『角度を文字 a° で表す』

関数の表・グラフの読み取りや、図形的性質を文字式で表すような「作業を伴う短答問題」で全国平均を下回っています。

4. 今後の授業改善・指導に向けた提案

① 「箱ひげ図」および「データ領域」の表現理解の徹底

- ◆ 箱ひげ図の「各区間にデータの約25%が含まれる」という概念の理解を深めるため、実際にデータを手を動かして整理・作図する活動を取り入れる。

② 関数の「表・式・グラフ」の相互変換トレーニング

- ◆ 反比例や一次関数において、「表から式を立てる」「グラフから点・値を読み取る」など、表・式・グラフを往復して考える短時間ドリルを帯学習で継続する。

③ 記述力の強みを活かした数学的コミュニケーションの継続

- ◆ 生徒が苦手意識を持ちやすい記述問題で健闘している強みを伸ばし、「なぜその式・考え方になるのか」を小グループで説明し合う活動を定着させる。

R8 全国学力・学習状況調査結果 英語(聞くこと・読むこと・書くこと)

1. 領域別平均正答率の比較

英語の技能・領域ごとの結果は以下の通りです。

領域	全国平均との比較
聞くこと（5 問）	全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
読むこと（5 問）	全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。
書くこと（6 問）	全国平均を下回っている。

2. 生徒の良い点

① 「聞くこと」領域での明確な強み：リスニング全般で全国平均を上回っている

- I. 『アナウンスを聞いて行くべき階を選択』
- II. 『職場体験の発表を聞いて絵を並べ替え』
- III. 『住みやすいまちづくりの発表を聞き要点選択』

音声を中心に概要や必要な情報を正確に聞き取る力がしっかりと身についています。

② 短い日常文章の情景・情報読み取り

- I. 『誕生日パーティーのメールを読んで適切な時刻を選択』
- II. 『友達からのメッセージと条件に合うウェブサイトの選択』

日常的で短い英文から事実情報や条件を読み取る設問には、全国平均を上回っています。

3. 生徒の課題

① 「書くこと(自由記述・英作文)」に課題がある

- I. 『学校で普段行うことを取り上げ、説明を書く』

無解答率も高く、白紙提出や十分な英文が書けない生徒が多い傾向にあります。

- II. 『留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く』
- III. 『中学生になってからの思い出と感想を書く』

与えられた条件や自分の考えをまとまりのある英文で表現する力(語彙・文法の活用および表現力)に大きな課題があります。

② 長めの長文読解(登場人物の気持ちの変化など)

- I. 『物語を読み登場人物の気持ちの変化を選択』

文脈全体の流れや心情の変化を捉えるような深い文章読解で課題が見られます。

4. 今後の指導に向けた具体的なアプローチ

① 「書くこと」の段階的トレーニングの強化

- ◆ 単語レベルから文の組み立てへ：主語＋動詞(S+V)の骨組みを意識させ、時制(過去形や進行形など)を正しく使う帯活動を行う。
- ◆ 定型フレームワークの活用：自分の意見や体験を書く際に「結論・理由・具体的エピソード」を書く定型パターン(テンプレート)を身に付けさせる。

② 長文読解における「文脈の把握」の指導

- ◆ 単なる語彙の直訳にとどまらず、「誰が・どう感じたか」「話の展開(起承転結)」に注目して段落ごとに整理するスキミング・スキニング練習を取り入れる。

③ 「聞くこと」の強みを「書くこと・話すこと」に還元する

- ◆ 聞き取った音声スクリプトを使って、音読やシャドーイング、書き写し(ディクテーション)を行い、リスニングでの強みをライティング力に直結させる。

1. 生徒の良い点

①「発表」領域での高い表現力と発話意欲

- I. おすすめの季節と理由を問う問題が全国平均を上回っています。
- II. 留学生としたいことを問う問題が全国平均とほぼ同程度ですが、やや上回っています。
- III. 「英語のゲームやコミュニケーション活動での盛り上がり」や「楽しそうに声を出す素直さ」が実を結んでおり、自分の考えや地域の魅力を順序立てて構成し、理由を添えて話す「発表」形式には強みを持っています。

② 基本単元・定型応答の定着

- I. 天気を伝える問題が全国平均を上回っています。
- II. 日常的に使い慣れている決まり文句や、シンプルな事実・状況の伝達については、自信を持って回答できています。

3. 生徒の課題

①即興的な「対話・やり取り」への対応力不足

- I. しようと思っていることを問う問題が全国平均を下回っています。
- II. 家に来てもらうよう依頼する問題が全国平均を下回っています。
- III. 電話でのやり取りのような「連続したやり取り」の中で、相手の発話に応じた適切な文法・表現(be going to や Would you...? / Please... など)を即興で引き出して答える問題に課題が見られます。

②「無解答率」の高さ(間違えることへの心理的ハードル)

- I. 思考力を要する設問において、無解答率が高めです。
- ◇「間違えたら恥ずかしい」「完璧に話せないなら答えない」という心理的抑制が、発話の途切れや無解答に影響している可能性があります。

4. 今後に向けた指導・学習の改善アプローチ

◆「やり取り(対話ラリー)」の機会拡充

単発のスピーチだけでなく、ペアワークなどで「相手の返答に応じて即座に一言返す」「相手に何かを頼む・尋ね返す」といった実践的な即興会話の練習を増やします。

◆「間違えても伝える」マインドの育成

文法的な完璧さよりも「知っている単語やジェスチャーでも伝える姿勢」を評価し、無解答を減らして「ナイス・トライ」を認め合う雰囲気を持続してつくり出します。

◆家庭学習(ワーク等)との連動強化

授業で慣れ親しんだ音声を、家庭学習で「書く」「文法構造を確認する」ことで定着させ、小学校からの「耳の慣れ」に「確実な文法力・語彙力」をプラスしていきます。